

「特別支援教育を考える」総合研究会

多くの教師に「合理的配慮の範囲はどこまでか」についての疑問があるのではないのでしょうか。
年度当初の情報交換会や中学からのプレ支援シートの提供は、必要な配慮のためのものです。
現場ではさまざまな生徒理解のためのアセスメントがあり、
更に「授業づくり」で生徒に主体が置かれていれば、学習場面に於ける要求に対して、
環境づくりや個々の支援など「できる配慮は決まる」のは必然です。
難しいのは「行動の支援」をいかに校内で共有できるかです。

目指すは、インクルーシブ教育だったはず。

今。これまで、
これから、

■2018. 6. 9

■10:30～

■高校会館 大会議室

教文
会議

長野県教育文化会議

長野市県町593

<http://kyobun-kaigi.sakura.ne.jp/>

TEL 026-234-2216 FAX026-234-2219

E-mail kyobun.nagano-h@educas.jp

特別支援教育を考える総合研究会(第2回総研)

多くの教師に「合理的配慮の範囲はどこまでか」についての疑問があるのではないのでしょうか。年度当初の情報交換会や中学からのプレ支援シートの提供は、必要な配慮のためのものです。

現場ではさまざまな生徒理解のためのアセスメントがあり、更に「授業づくり」で生徒に主体が置かれていれば、学習場面に於ける要求に対して、環境づくりや個々の支援など「できる配慮は決まる」のは必然です。

難しいのは「行動の支援」をいかに校内で共有できるかです。

これまで..

特別支援教育は決してトップダウンで降りてきただけのものではなく、それまでの障害児教育における保護者の願いや教職員の運動の成果でもあった。目指すはインクルーシブ教育だったはず。

これから..

通級による指導で高校の特別支援教育の問題点が解消されるわけではない。

お金をかけずに教職員の資質でインクルーシブ教育を構築すれば通級指導はなくてもいい。

今!...

今も困っている生徒の実態を高橋先生の当該者調査による事例(非行少年、食にかかわる調査より)・問題行動、犯罪の背景にある発達障がいについて、また、厚生施設の彼らへの対応はどのように行われているのかをお話いただきます。

10:30 開会 挨拶、情勢報告など

10:50 講演「高校における特別支援教育の10年 —これまでとこれから、そして今—」
東京学芸大学総合教育科学系 教授 高橋 智さん

12:30 昼食

13:30 「小・中・高 通級指導教室」の実際

① 小・中学校の通級指導教室の実際「巡回指導から見えてきたもの」
(長野県小学校、中学校、特別支援学教の現状含む)

「発達障害・愛着障害の子どもたちと向き合う

～自閉症・情緒障害児学級(小・中学校)の巡回相談を通して～」

全障研長野支部 坂戸千明さん(稲荷山養護学校)

② 高校における通級指導教室の実際

「スタートを切るまでの困難点」

東御清翔高校 内堀明子さん

15:15 「第2次特別支援教育推進計画」について

:長野県の特別支援教育あり方を考える検討委員会
県教組障教部長 下田有輝さん

15:45 交流

16:30 終了

2018.6.9 SAT

於:高校会館